

客観的な勤務時間把握を！ 健康診断の受診率向上を！

県教委安全衛生委員会開催される



1月30日、県教委主催の「県安全衛生委員会」が開催され、高教組からも委員として参加しました。会議では18年度実施した健康管理事業の実施状況と勤務負担軽減に向けたとりくみについて報告がありました。その中から主な事項について報告します。

【定期健康診断】

- 県立学校全体でD3（保護措置不要：いわゆる良好の区分）の割合がわずかに17%。健康に働いている人が5人中1人という現状。C1（要注意）が37%にもなっています。年代区分別で見ると、40代後半では41%の人がC1状態。まさに要注意です。

【実施率】

年度	定期健康診断	胃検診	前立腺	乳がん検診	子宮頸がん	大腸がん
2018	98.8	82.4	99.7	61.0	28.5	86.5
2017	100	83.1	99.8	57.8	55.7	88.6

※18年度データは18年12月末現在のもの。

- 受診率の低下はデータの処理期間の違いもありますが、実施率が極端に低い項目については、検診を受けやすい職場環境整備や職員一人ひとりの意識改革をするなどのとりくみが必要です。学校安全衛生委員会の議題にすることも必要です。

【勤務時間外状況】

○職員1人あたり月平均時間（単位：時間／月）

年度	7月		8月		9月		第2四半期	
	18	19	18	19	18	19	18	19
高校	39.7	35.9	32.4	43.4	33.6	48.3	35.2	42.6
支援学校	9.2	9.4	6.0	13.5	11.7	19.7	9.0	14.2
全体	30.8	28.2	24.6	34.6	27.2	39.9	27.5	34.2

○80時間以上100時間未満の割合（単位：％）

	7月		8月		9月		第2四半期	
	18	19	18	19	18	19	18	19
高校	6.8	5.4	5.5	6.5	5.4	8.5	5.9	6.8
支援学校	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0

○100時間以上の割合（単位：％）

	7月		8月		9月		第2四半期	
	18	19	18	19	18	19	18	19
高校	9.8	7.6	5.6	7.2	5.7	9.0	7.0	7.7
支援学校	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

- 8月からタイムカードが導入され、勤務時間の客観的な把握が行われています。これまでの自己申告方式に比べ、いずれも勤務時間外の数値が増えています。タイムカード方式にはまだまだ不正確な面や使いにくい課題はありますが、これがわたしたちの働き方のエビデンスとなります。業務削減・適正な人員の配置を求めるために、使いにくさはありませんが、記録していくことが大切です。